



読売歌壇

たんぽぽの道をうなりてトラクター
宇都宮市 津布久 勇

花堤(こ)まで津波寄せしとか
小山市 松本 喜雄

振り花(こ)の世にいままだ戦あり
つくば市 小林 浦波

うつすらと金のすぢ見ゆ桜貝
川口市 清正 風葉

伐採を待つ今生の花万朶
伊勢崎市 大和とき子

小池 光選

春風の中の老猫充電をしながら今日も動かすし
横濱市 佐藤 隆司

【評】老いたる猫が春の日差しの中でうつらうつらしている。それを充電中と見立てたところがおもしろい。まるで家電製品のようにふらりふらりと動かす尻尾がかわいい。

牢名主のような親父にうめると一喝された湯屋の懐かし
東京都 影山 博

【評】むかしの銭湯だろう。おっかない爺様がそれはそれは熱い湯に入っていて、うめようとする怒られる。こういうお爺さんいなくなつた。「牢名主」がぴったり。

連れあいの骨を拾いしあの日から二十七年 吾は生きおり
赤磐市 黒岩 博美

【評】素朴な歌だが結句にはっとした。夫を亡くしていつの間にか二十七年。わたしも老いたが、この世の片隅にあつて歌を詠む。

たんぽぽの絮で描いたとふと思ふ永久に空とぶシャガールの妻
名古屋市 山守 美紀

やはやはと風流れる春の日の綿あめみたいなお山のさくら
太田市 木戸 健房

「ああそうか」それからうしろした大事なり此の二言にて会話はすめり
城陽市 相原 洋次

夕立ちに身じろぎもせず抱卵のコウノトリ見ゆ鉄塔の上
足利市 熊田 敏夫

海岸でひとり聴いてるフロンク淡路の島を眺めながらね
鳴門市 楠井 花乃

かつて祖父天皇陛下を見ちやだめとわれに言ひたり目がつづれるぞと
匝瑳市 椎名 昭雄

父母の思い出語つた兄遊きて誰と語らん兄との思い出
大東市 若槻 豊彦

浜焼きに切れぬ人波春景色
奈良県 松井 秀仁

かしわ餅餅の部分が好きと言ふ
狭山市 新井 教子

返し馬の茸毛の牝馬風光る
川崎市 沼田 広美

インターホンに仔犬ぶる春の昼
川崎市 大野有之介

春雨にムサシアブミによつきりと
川崎市 松浦 恵子

栗木 京子選

秩父路の夕暮れ時の山々は黒い銘仙纏つて眠る
所沢市 青木 照子

【評】銘仙は染色した絹糸を使う織物。和服や布団生地などとして活用され、秩父は有数の産地である。山々の纏つた夕闇を「黒い銘仙」に喩えたところに豊かな抒情性が漂う。

旋盤の音の中に父は生きた庭に季節の花々咲かせ
横濱市 三上 光子

【評】工場で旋盤を動かす仕事に従事していた父。あまり遠出することなく、庭の花々を慈しみながら人生を送つたのだろう。上句の音と下句の花の描写との照応が印象深い。

「お年頃」親の介護に苦労する我ら互いに慰める言葉
狛江市 野々 栄里

【評】親の介護をする「我ら」。若くはないのだが、あえて「お年頃」と自称すれば気分が浮き立つ。お互いの連帯感が力強い。

兄弟が施設に入る歳となり昨日と違ふ今日がはじまる
東京都 岸浪 三蔵

限定の力二弁当を買いに行く父の自転車は歩く速さで
大阪市 吉田 成美

痛みどめ効いて多弁の我となりデイサービスの一日が愉快
神戸市 久下 明

デイケアの楽しさ教えてくれる人年の差十二背を見て学ぶ
宗像市 竹下 圭規

検閲の朱印はビルマ亡き父が一歳の我に宛てし文なり
横濱市 弘田 光子

四つ折りのレシート堅く握りしめ物価高思ふ老いの二人は
白岡市 黒須 秀子

わが老体は満身創痍樹木医さんどこからなおすかヒント下さい
東京都 駒形 光子

俵 万智選

貝殻をいぢまい拾うこの海におなじかたちがもう一つある
東京都 鳥さんの臉

【評】一枚貝の片方を手にしながら、もう片方へと思いを馳せる。それは、この世に自分と同じ形のものが必要であるという心の強さだ。淡々と事実を述べながら、広い世界への希望を感じさせてくれるところが魅力。

雨粒が散つた桜を溼ませて春を納める封蠟にな
座間市 藤村 しむ

【評】溶かした蠟にスタンプを押して、手紙などの封をする封蠟。散つた桜の花びらが雨に濡れてふやける感じがうまくなつた。春という季節が封印されるイメージが美しい。

巨漢だが軽快さがあつた街中をへんつささのつささV力士は歩く
富士見市 松本 尚樹

【評】独自のオノマトペの説得力。凶鑑のように客観的な上の句の描写も効いている。

ただいまのくたびれた靴でいねいに歩いてきますの向きにそろえる
出雲市 木佐 優士

まだ冬の手のひらだったブルゾンの袖をはみ出た君を握れば
大和郡山市 大津 穂波

対話すら成り立ってない世の中でなぜか人類火星を目指す
入間市 大野 美波

飲みかけのペットボトルの蓋を開け昨日の空気と一緒に飲む水
守口市 小杉なんぎん

金のエンゼル出たら会社を辞めようか 休憩室の時計が早い
熊谷市 茂出木智子

スイミーはこんな気持ちか初めてのペンライトデモの一粒となる
朝霞市 古田つむぎ

つつじつつじ あなたのことをつつがなくすきでいられるわたくしが好き
大阪府 中村 杏

黒瀬 珂瀾選

手作りの土俵でダーニャに続かむと四股踏む子たちピンツァアのジム
東京都 椿 泰文

【評】大関安青錦はウクライナのピンツァア生まれ。ダーニャは彼の愛称。たとえ戦禍の国であっても先輩への憧れを胸にして、相撲へと挑む少年たちがいる。遠く海を越えて平和の祈りと熱いエールを送る一首です。

手に取れば栄螺の殻に重みあり海の時を巻き込むことし
前橋市 西村 晃

【評】サザエの殻のらせんには悠久たる海の時時間が巻き取られているのだ、と。貝の重みはそのまま、海の生命の歴史の重みなのだ。スマホにて娘の愚痴を聞いているまだこの老母に役目あるらし
河内長野市 宮守 富

【評】愚痴の聞き役、大切な役目です。愚痴をこぼせるほどに、娘は母親を信頼しているわけですね。いい親子関係だと思えました。歩をとめて人屋の庭の蒲公英を見やりてをれば「整列」の声
松本市 武井 絋彩

珍しく父が薔薇など買ってきて結婚祝いと言ふ八十路かな
金沢市 山本 葉舟

かまぼこ板を削って作った戦艦のすこし匂うを鹽に浮かべき
大和郡山市 四方 護

湯ぶねにてフォスターの曲口すさむ 厨の妻が英語で和する
高崎市 熊沢 峻

神の名のもとになしたる戦争を神は黙して何も語らず
枚方市 衛藤 聡一

命日の義父に線香あげたれば真っ直ぐ立てり優しい遺影
仙台市 平野 洋子

死者生者賢者愚者貧者富者チヤ猫とネットの銀河に君も
熊本市 夏風かをる



題字「サイン・イラスト」 福田美蘭

◇投稿規定◇ はがき1枚に未発表の1作品。住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記。◇他の媒体、選者への二重投稿は厳禁です。選者が添削することもあります。〒103・8601、にほんばし蔵前郵便局留、読売歌壇、〇〇先生(希望選者名)係または読売新聞オンラインから ◇毎週月曜日に掲載 右の影絵はすずめのこ